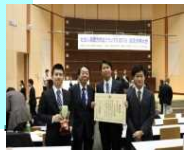
大学等名：大阪工業大学
テーマ　：テーマⅤ（卒業時における質保証の取組の強化）

本学ではこれまで３ポリシーの整備や教育課程の改定，FD推進など，全学的に教育力向上の取組を進めてきた。更に平成28年3月に学長方針「適正な成績評価基準に基づく厳正な成績評価の実施」を示し，各授業科目のミニマム・リクワイアメントの明確化，教育の最低限の質確保の取組に着手した。

本事業では，これらの改革を更に加速するため，独自の「ディプロマ・サプリメント・システム」を構築し，学生の学修成果を可視化すると共に，システムを用いて教員が個別面談を行い，学生の自律的学修を促す修学指導を行う。また，外部人材と協働で，在学中の学修成果をまとめたディプロマ・サプリメントを開発し，就職活動等での活用を目指す。更に全教職員を巻き込み，社会のニーズに適う質保証と教育改善サイクルを全学的に確立する。

	＜これまでの取組＞	＜現状・課題＞	＜本取組＞
社会のニーズに適う質保証の実現	・3ポリシー策定による教育改革の推進 ・**厳正な成績評価やミニマム・リクワイアメント提示**による質保証の取組を始動	学外人材が関わってこなかったため，3ポリシーや成績評価基準等に社会からのニーズは反映できていない。	**外部人材からの助言評価**を受け，DPの改定や厳正な成績評価，DSの開発等に取り組む。
全教職員への認識共有と主体的参加	工学部では，教育推進委員会を設置し，授業アンケート結果を教育力向上に向けて活用。ポートフォリオを活用して教員が個別修学指導も行っている。	・他学部への浸透は不十分 ・工学部内でも取り組んでいる学科は一部で，教職員にも温度差がある。	・工学部全学科から代表教員を事業推進委員会に参画させると共に，厳正な成績評価や個別修学指導，FD研修等を全教員必須の取組とし，認識共有を図る。 ・FD・SD研修を通じて，**工学部の成功モデルを他学部に波及**させる。
学生のキャリア形成支援と主体的参加	・工学部では**全1・3年生がPBL科目を履修** ・「社会人基礎力グランプリ」で**大賞（経済産業大臣賞）3回**，準大賞1回受賞するなど，**全国的にも高い評価**	学生の参加態度に温度差があり，必ずしも全員がPBL科目に主体的に取り組んではいない。	・学生の主体性を高めるため，**キャリア形成支援講座**を行い，在学中に伸ばすべき学士力への意識を高める。また，**自己の成長をDSシステムで確認し，就職活動に活かす。**



＜本事業の成果目標＞
- 全ての学生がDSシステムを活用し，主体的に学び，OIT学士力を獲得して卒業する。
- 全教職員がFD・SD研修に参加し，本事業に参画する。
- 学生の累積GPの底上げ
- 学生の進路決定率及び中堅・大企業への就職率の向上
- 採用選考でDSを活用する企業の拡大

＜学内外への波及効果＞
- 工学部の成功モデルを他学部に波及し，全学的な取組に拡大
- 就職活動で学生がDSを活用することで，本学の教育成果を企業等に発信
- DSシステムやキャリア支援手帳，各種調査結果など，教育改善に向けた知見・ノウハウを学外に発信・共有

【事業の成果】	27年度（実績値）	28年度（目標値）	29年度（目標値）	31年度（目標値）
学生の授業外学修時間（1週間当たり）	24時間	30時間	36時間	48時間
卒業生追跡調査の実施率（調査回答者数／卒業者数）	0%	0%	10%	15%
DSシステムを用いた修学指導の実施率（指導済み学生数／全学生数）	0%	50%	60%	80%

■本事業により期待される改革効果

外部人材からの助言評価を受けてDP改定や厳正な成績評価，DSの開発等に取り組むこと，学生が就職活動でDSを活用することにより，**社会のニーズを踏まえた教育の質保証と教育改善サイクルを確立**できる。

■本事業による大学全体への影響

FD・SD研修へ全教職員必参加とすることで認識共有を図り，**全学的な取組を確立**する。また，教員はDSシステムを用いて個別修学指導を行うことにより，学生の成長を目の当たりにし，学生指導や教育へのモチベーションを高める。